

# こんにちは日本共産党県議団です

## 「議会らしくなった」

12年ぶりに日本共産党愛知県議会議員団(わしの恵子、下奥奈歩)が誕生しました。議員団は、5月臨時議会と6月定例議会で、本会議でも常任委員会でも積極果敢に発言し、県民の切実な声を県政に届けました。

県会議員102人のなかで日本共産党議員は2人ですが、本会議で知事提出議案に反対討論を行いました。それに対するように、自民党が賛成討論に立ちました。まさに“自共対決”です。県議会は、一気に活性化し、県民から「議会らしくなった」と共産党議員団が注目されています。



## 公約実現へ

## わしの・下奥両県議 県民の声を代弁

**わしの議員**は、入居希望者解消への特養ホーム増設や県民の健康・医療の根幹である国民健康保険の改善と合わせて、県の子ども医療費の改善を求めました。

子ども医療費の無料制度は、ほとんどの市町村で入院・通院ともに中学卒業まで拡大しています。「県は通院が現行の義務教育就学前までを少なくとも中学卒業まで補助の対象にするべき」との質問に対し県は、「県の目標は達成している」として福祉医療は市町村まかせの回答でした。さらに、所得制限を導入し有料化することを通じて、県民に負担を求める検討を進めています。自民党の悪政をそのまま県民に押し付け、「県民福祉を増進する」県の責任を放棄する姿勢が鮮明となりました。

**下奥議員**は、地方創生、特に、東三河総合戦略について県の考えや認識を質問しました。

若者の声を紹介しながら、「地方創生は若者がカギ。ブラック企業や非正規雇用の解消は重要」と指摘、また、「地元の地産地消や新規就農青年の支援の重要性」を強調しました。

さらに、住宅リフォームや商店リニューアルを紹介し「リニア中央新幹線より小規模事業者の振興を」と迫りました。また、高校生・大学生の意見交流会をもっと重視する必要性に触れ、県の考えを尋ねました。

最後に下奥議員は、「若者雇用対策の推進、正社員化の加速は重要な課題です。若者が安心して働ける施策を」と強く求めました。

## ゼロ戦 展示施設

## 戦争美化と共産党追及 豊山町長も「若者に触れさせたくない」



壇上で反対意見を述べるわしの議員

下奥議員は5月臨時議会で、県営名古屋空港内に30億円を投じてゼロ戦や小型ジェット旅客機などの展示館建設について、戦争美化や大企業奉仕だと指摘しました。地元の豊山町長も「若い子に見せて興味を持たせたくない」と批判しています。また、わしの議員は6月議会で、「三菱重工など名だたる企業の人材育成に公費を投入するのはおかしい」と反対しました。

県は、「県として重視している産業分野」と開き直りました。「福祉よりも産業重視」の愛知県政のゆがんだ姿が、ここでも浮き上がっています。

## 日本共産党県議会報告

ご意見・ご要望をお寄せください。

2015年8月

〒460-8501 名古屋市中区三の丸1-2  
☎052(954)6716 ☎052(961)5420  
発行：日本共産党愛知県議会議員団